

牧場見学の9箇条



1 牧場見学はまず競走馬のふるさと案内所にお問い合わせください。



2 見学時間や条件は案内所までお問い合わせください。



3 牧場に着いたら必ず関係者の指示に従ってください。

ご注意ください!

全ての牧場は無断立入禁止です。また、見学の際のケガや馬の事故等については、見学者の責任となる場合がありますので、牧場内での行動には十分な注意をお願いします。



4 厩舎や放牧地は無断立入禁止です。



5 大きな音や声を出さないでください。携帯電話はOFFに。



6 危険ですから馬にさわらないでください。

「ホームページを見た」などを理由に、牧場に直接問い合わせたり、訪問することは絶対におやめください。



7 カメラのフラッシュ及び自撮り棒は使用しないでください。



8 牧場内は禁煙です。ゴミも持ち帰ってください。



9 馬には絶対に食べ物を与えないでください。

馬産地を結ぶ「競走馬」のインフォメーションセンター 競走馬のふるさと日高案内所

主な情報サービス

- ファンだった馬のけい養先・種牡馬・繁殖馬の成績、現役時代の競走成績等の情報提供
- 牧場見学の案内(見学の可否、見学期間・時間の案内)
- せり市場の案内(開催地域・時期・日程など)
- 競馬開催日程の案内
- 乗馬施設の紹介(観光牧場を含む乗馬可能施設、全国の乗馬施設など)
- 競馬レースのビデオ・専門図書の閲覧(貸出不可)、各種参考資料の提供
- 馬に関する行事・まつりの案内
- 馬産地までの主な交通・宿泊・観光案内など

競走馬のふるさと日高案内所

- 所在地 / 〒056-0002北海道日高郡新ひだか町静内神森175-2
☎(0146)43-2121 FAX(0146)43-2500
- 開館時間 / 9時から17時
夏期(4月21日～10月20日)、火曜日休館(火曜日が祝日の場合は開館)
冬期(10月21日～4月20日)、土曜・日曜・祝日・年末年始休館
※臨時休館あり(詳細は要問い合わせ)

牧場見学のルール&マナー

競馬ファン・観光客の皆様にお願ひ



牧場訪問の前に必ずお読みください!

- 牧場への突然の訪問や連絡はマナー違反です!
引退名馬を見学する方は必ず競走馬のふるさと案内所まで事前にお問い合わせください。
- コロナ禍により、牧場見学の情報が変わっています。必ず事前の確認をお願いいたします。
- 牧場訪問の際はマスク着用・手指の消毒・事前検温など、新型コロナウイルスの感染防止対策をした上でお願いいたします。

発行:北海道日高振興局(TEL 0146-22-9073) 協力:競走馬のふるさと日高案内所

いつでもどこでも、最新の馬産地情報入手できます!

競走馬のふるさと案内所
ホームページ

【パソコン・スマートフォンから】
<https://www.uma-furusato.com/>

右の二次元コードからアクセスできます



馬産地を訪れる競馬ファン・観光客の皆様へ

重要なお知らせ

競走馬のふるさと案内所は、馬産地の仕事や役割、名馬輩出の苦勞をより多くの皆様に理解してもらうことを目的に、馬産地の様々な情報を提供することを主な業務にしています。案内所の中で最も人気のある牧場見学は、熱心な競馬ファンの強い要望によって実現したのですが、案内所としては馬産地を知ってもらうための広報的役割、牧場側にとっては若手従業員や将来を担うホースマン育成のきっかけになればと、一定のルールを設けて実施してきたものです。

しかし、近年はその牧場見学で悪質ないたずらがあり、案内所には牧場側から見学マナーの悪さに対する苦情が寄せられています。また、名馬を持つ牧場では見学を中止する所が出てきています。

ひとりの不注意によって、多くの観光客・競馬ファンの楽しみがなくならないよう、ここに馬産地の見学の注意事項と見学のマナーを取り上げました。牧場見学の中止をこれ以上増やさないためにも、掲載事項を必ず守ってくださるようお願いいたします。



馬産地基礎講座

馬にも、牧場にも種類があります。

馬は152もの品種に分類されますが、そのうち競走馬はサラブレッドとその系統に分けられます。サラブレッドはより強く、より速い馬をつくるために交配が行われ、現在まで優秀な血統だけが受け継がれています。また、競走馬を扱う馬産地の牧場は、繁殖を主体とする生産牧場、レースの基礎訓練を積む育成牧場、そして生産から育成・調教までを手掛ける生産育成牧場に大別できますが、仕事の内容や形態は牧場によってさまざまです。

牧場は馬が暮らしの基準です。 一般の生活サイクルとは違います。

牧場の仕事は一般的に朝5時に馬出し、午前中は厩舎作業。11時～14時の休憩後、外作業、馬入れと続きます。このほか牧草刈り、出産、種付けなど、時期的な仕事も多く、さらに扱う馬は大型で臆病な動物だけに日々体力と神経を使う大変な仕事。牧場は馬が本当に好きでなければできない仕事なのです。

馬は敏感な生き物です。 馬を知らない人にとっては 大変危険です。

「速く走ること」馬はそれが唯一の防衛手段です。そのため危険を素早く見極める視野の広い目、微細な音を察知する耳を持っています。牧場見学で大声や急な動作などによって突然馬が暴れたりする原因は、それを敏感に察知した馬ではなく、馬のことを知らない人間にあることを忘れないでください。

競走馬は牛・羊・豚とは その価値観が全く違う 高額な経済動物です。

競走馬は一頭につき繁殖牝馬(めす馬)で数百万～数千万円、種牡馬(おす馬)は数千万～数十億円と、その価格は高額です。世界的な規約で人工授精ができない血統重視の動物であり、速く走ること、名血を伝えることだけが競走馬の役割です。他の家畜とは基本的に違う価値観を持つ動物、それが競走馬であり、走る芸術品にたとえられる由縁はここにあるのです。

馬の病気は、たいていの場合 人間によって広まります。

牧場では馬の臆病で敏感な性格と、殺処分扱いとなる伝染病に一番神経をとがらせます。馬の病気といっても、風邪から殺処分扱いとなる伝染病までさまざまですが、問題はその原因が明確でないことです。ただ、限られた敷地で暮らす馬とは違い、多様な交通により、どこへでも行くことができる人間の手や靴が、最も病原菌を運びやすいことは明らかです。牧場では消毒槽などを設置して外からの病原菌に対処していますが、それで解決できる問題でもありません。防疫の面、馬の事故を防ぐためには、本来ならば、関係者以外立入禁止が最善の方法であることを知ってください。

**馬産地の軽種馬牧場は
観光牧場ではありません。**

競走馬のことをあまりよく知らない 観光客の皆様へ

馬産地見学のアドバイス

レジャーやドライブなどで訪れる観光客の中には、ついでに牧場見学を楽しもうと考えている方も多いと思います。馬産地では、馬のことをよく知らないそうした人によって、重大な事故が起きる場合もあります。ここでは、一般観光客の皆様にご守ってほしい、馬産地見学の注意事項を紹介します。



1 馬産地の軽種馬牧場は 観光牧場ではありません。

軽種馬牧場は競走馬を育てることが仕事であり、観光目的で馬を扱っているわけではありません。したがって、観光客の都合や見学の理屈は通らないことを知ってください。

2 競走馬のことを 知らない人の見学は牧場で 断られる場合があります。

優秀な成績をおさめた世界的な血統馬を、ただの馬としか見られない人の訪問は、牧場が最も嫌います。また、馬のことを知らないだけに、こうした人による事故も多いのです。

3 牧場内はもちろん、 放牧地も無断立入禁止です。

馬を見るため車を無断で牧場敷地内に入れたり、牧場の人がないからといって、勝手に牧場内・放牧地に入らないでください。これは伝染病など防疫の面からも必ず守ってください。

4 馬産地では、服装や持ち物も 馬の事故につながります。

風にあおられるジャンパー・帽子、雨天時の傘の開閉は、馬を驚かせ、重大事故につながります。また、光るもの、音が出るものなども持ち歩かないでください。

5 犬や猫などのペットは、 車の中でも、牧場に 近づけないでください。

馬は力の強い動物です。近くにいるペットなどによって馬がパニックを起こすと、牧場の人でも簡単には抑えられません。ペットは絶対に牧場に近づけないでください。

6 牧場周辺で大きな音や声 を出さないでください。

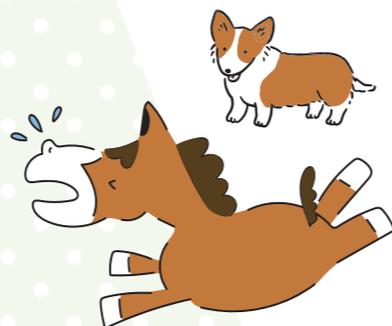
牧場が集中する地域では、車のスピードを控えてください。もちろん暴走行為やクラクションは禁止です。また、女性や小さな子供のかん高い歓声も馬にとっては悪影響です。

7 馬には絶対に さわらないでください。 食べ物を与えるのも禁止です。

馬産地の馬は、保険・衛生・健康・発育など、競走馬としてその全てが管理されています。放牧地で馬が寄ってきて、決してさわったり食べ物を与えたりしないでください。

8 馬産地では、ゴミの処理に 十分注意してください。

風の強い日の服装と同様、風で飛ぶビニールや紙クズは馬産地では重大問題です。ひとりの不始末が多くの牧場に迷惑をかけることとなりますので、ゴミは必ず持ち帰ってください。



憧れの名馬・期待の駿馬に会いにくる 競馬ファンの皆様へ

牧場見学のアドバイス

多くの競馬ファンが、レースを引退した名馬に会いに馬産地へやってきます。しかし、牧場にとってこれらの名馬は次世代を担うかけがえのない資産。できれば静かに生活させたいと考えます。会いたいファンと守りたい牧場。そんな対照的な想いが、馬産地で大きな問題となっています。



9 名馬を見学できるのは とても貴重なことだと 自覚してください。

馬産地で牧場や名馬を見学できるのは、日々の忙しい仕事の中、熱心なファンのために牧場側の好意として実現されているもの。本来は珍しいケースであることを知ってください。

10 事前に連絡を入れなければ 見学できない牧場が ほとんどです。

牧場は日々のスケジュールに合わせて仕事をしています。見学者のためにそれを遅らせるわけにはいきません。牧場見学は事前に見学可否、見学時間を案内所で確認してください。

11 馬産地に暮らす軽種馬は 大切な資産であり、 高額な商品です。

馬産地の牧場では、一頭数百万円～数十億円という軽種馬がたくさんいます。見学者の不注意で事故があった場合、その責任は重大になることを知っておいてください。

12 名馬のファンであるから といって見学に有利になる ことはありません。

「この馬に大金を賭けた」、「見ても減るもんじゃない」など、ファンの理屈で見学不可の牧場に押しかける人がいます。こうしたファンも、見学牧場を減らしているひとつの要因です。

13 繁殖牝馬でも、時期や 馬によって凶暴になる時が あります。

牧場の人がいるから、繁殖牝馬だから安心とは限りません。見学者の不注意や急な行動、時期などによって、普通はおとなしい繁殖牝馬でも凶暴になることがあります。

14 牧場見学では、挨拶・マナー など、礼儀をわきまえた行動 をお願いします。

牧場見学では「見学させてもらっている」という意識を常に持ってください。また、他人の敷地へ申し出て入るわけですから、来たとき・帰るときには挨拶も忘れずに。

15 スマートフォン等による トラブルが増えています。 ご注意ください!

スマホ等の電源はOFF、またはマナーモードにしてください。また、SNS等への掲載につきましては、牧場に許可を得てから行ってください。

16 牧場内でカメラのフラッシュ・ 自撮り棒は使用しないで ください。

馬は瞬間的な動き、音や光に敏感に反応します。これら急なことが起きると、突然走り出したり暴れたりします。また、馬が怖がりますので牧場内へ自撮り棒を持ち込むことはできません。

牧場地帯でドローン(無人航空機)の 使用は禁止です!



馬産地ではこんなことが起きています 牧場からひと言

見学による迷惑・苦情集

競走馬のふるさと案内所には、毎年多くの観光客・競馬ファンが訪れます。この数が増えるたびに案内所には牧場側から多くの苦情が寄せられています。ここでは案内所に寄せられた牧場からの声のほんの一部を紹介いたします。この声を真剣に受け止め、見学のマナーを必ず守ってください。



17 他人から預かっている馬がいることを知ってほしい。

他人所有の高額な馬を預かっている牧場では、自分の馬以上に神経を使います。そんな中で見学者が来ると、預かっている馬・見学者両方の事故の心配で、仕事になりません。

18 牧場見学によって、清掃・消毒など、馬に係わる以外の仕事が増えた。

観光客やファンはどこから来るかわかりません。したがって、伝染病などの消毒は毎日、清掃も念入りに行わなければなりません。また、見学者への対応も頭痛の種となっています。

19 牧場の種類やその仕事・役割が理解されていない。

競馬やレースのことは専門家並みに知っているものの、その馬を輩出する馬産地の役割・苦勞、仕事については、小説や映画の舞台のようなあこがれでしかとらえられていないようです。

20 爆音をあげて通るバイク・車が牧場周辺を走り回る。

牧場集中地域では、放牧地へ道路を横断して馬を連れていく牧場も多いのですが、観光シーズンはそれが大変な苦勞です。当然、ごう音も馬には悪影響となっています。

21 馬は敏感で神経質な動物であることを知ってほしい。

馬は大動物の中で最も臆病な生き物で、驚いたり危険を感じるとパニックになりやすい動物です。普段馬と接していない人間が近づくと、大変危険なことだと知ってください。

22 馬を走らせようと、石を投げたり物を振り回したりする。

これらの行為は言語道断です。放牧地で馬が走り回る光景は早朝などのごく限られた時間。それも馬自身が気持ち良く走っているのであり、パニックを起こしているわけではありません。

23 牧場の人に隠れて馬にイタズラをする。

馬の毛をむしる、勝手に物を与えるなど、悪質なファンは増えているのが現状です。牧場側では「熱心なファン」という人ほど、疑って監視せざるを得ない状況となっています。

24 牧場見学を断っているにもかかわらず強引に押しかけてくる。

見学不可の牧場はもちろん、忙しいため時間を区切って見学を許可している牧場でも、時間外に強引に押しかけてくる。これでは牧場側でも見学を中止せざるを得ません。



馬産地をもっとよく知ってもらうために 案内所から皆様へ

馬産地情報メモ

競走馬のふるさと案内所では、馬産地の状況や仕事をより多くの皆様知ってもらうために、様々な情報提供・啓蒙活動を行っています。また、近年大きな問題となっている牧場見学のあり方や見学のマナー等も、牧場側・見学希望の皆様とともに、より良い方法に改善していこうと考えています。



25 牧場見学は、必ず案内所でその見学可否をご確認ください。

馬産地で見学できる引退馬や、そのけい養牧場の見学条件は限られています。牧場見学希望の方は、まず案内所で見学の可否、見学可能時間、注意事項を必ず確認してください。

26 牧場見学では、裏表紙に掲載の「牧場見学9箇条」を厳守してください。

競走馬のふるさと案内所では、牧場側と協議して「牧場見学の9箇条」を牧場見学のルールとして決めました。牧場見学に際しては、このルールを厳守してください。

27 案内所では、牧場地図を用意しています。見学や観光にご利用ください。

日高案内所では管轄地域の牧場地図を作成しています。牧場見学にご利用ください。日高地域の牧場地図は見学可能な種牡馬(おす馬)・繁殖牝馬(めす馬)及び功勞馬に掲載しています。

28 馬産地は交通手段が少ないことをあらかじめ知っておいてください。

軽種馬牧場は町から離れた郊外・山間に点在しています。そのため、バスの便数、ルートも限られていますので、牧場見学は十分な時間の余裕をみてください。

29 軽種馬情報は全国の案内所等で入手が可能です。

北海道、東北、千葉、九州の各案内所は、情報ネットワークによって結ばれ、どこからでも最新の軽種馬情報を引き出すことができるようになっています。

30 引退名馬・繁殖馬の見学は普通の観光とは少し違います。

引退名馬などの見学は、競馬ファンの方の「自分が応援していたこの馬に会いたい」という気持ちから始まります。特定の馬へのご希望がない場合、案内所からおすすめてくれるのは観光牧場のみとなります。

31 案内所では、牧場就職やアルバイトの斡旋はしていません。

競走馬のふるさと案内所では、牧場への就職やアルバイトについては法律上お応えすることができません。そのため、ハローワークや「牧場就業促進事務局」のWEBサイトをご案内しています。

32 牧場見学は皆さんの協力が絶対に必要です。

競馬ファンにとっては残念なことですが、名馬と出会う牧場が毎年少なくなっています。このような事態が広がらないよう、一人ひとり自覚を持って行動してください。

